

## 会議録

会議の名称	第2回弥富市総合計画審議会
開催日時	令和4年12月26日(月) 午後1時30分～4時00分
開催場所	弥富市役所本庁舎5階 協議会室
出席者及び欠席者	出席者：藤井勉（会長）、入江容子（職務代理）、鬼頭由美子、伊藤肇章、児玉日佐美、佐藤博孝、葛山裕司、南谷元尚、加藤祥二、釜田公良、奥村明彦、伊藤恵造、八木輝治、清水香菜、東嶋とも子、今井いずみ、鈴木裕一（順不同） 欠席者：伊藤廣、伊藤善啓、手嶋正章 事務局：市長、副市長、教育長、総務部長、市民生活部長、建設部長、教育部長、議会事務局長、総務部参事、保険年金課長、企画課政策課職員4名、(株)ぎょうせい3名（順不同） 傍聴人：1名
会議内容	1 開 会 2 あいさつ 3 報告事項 （1）アンケート（市民、中学生）及び市民ワークショップ結果について （2）現行計画の中間評価について 4 審議会委員ご意見等について 5 その他 6 閉 会
会議資料	1 次第 2 資料1－1 市民アンケート回収結果と標本誤差 3 資料1－2 市民アンケート調査結果まとめ 4 資料2 中学生アンケート調査結果まとめ 5 資料3 職員アンケート調査結果まとめ 6 資料4 市民ワークショップ結果【速報版】 7 資料5 第2次弥富市総合計画前期基本計画中間評価資料【令和元年度～3年度】 8 資料6 弥富市の現況等に対する審議会委員意見 9 参考1 アンケート（一般市民）単純集計【速報版】 10 参考2 アンケート（中学生）単純集計【速報版】 11 参考3 アンケート（職員）単純集計【速報版】

発言者	会議の経過（議題・発言内容等）
事務局（伊藤企画政策課長）	<p>1 開 会</p> <p>それでは、定刻となりましたので、ただいまより第2回弥富市総合計画審議会を開催させていただきます。</p> <p>本日司会を務めさせていただきます企画政策課長の伊藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本審議会は、会議録作成のため録音をさせていただきますので、御了承ください。</p> <p>また、御発言の際は、お手元のマイク操作を事務局のほうで行いますので、ボタン等は触らずに、挙手のほうでお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、欠席委員の御連絡をいたします。</p> <p>本日は、委員名簿1番、伊藤廣委員、10番、伊藤善啓委員、17番、手嶋正章委員より欠席の御連絡をいただいておりますが、定足数を満たしておりますことを申し添えます。</p> <p>また、本日は、健康福祉部長が他の公務のため保険年金課長が代理出席、総務部長は14時より他の公務のため途中退席いたしますので、御了承いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、会議に入ります前に、資料の御確認をさせていただきます。本日、机の上に資料4及び資料6、参考といたしまして委員名簿、配席図、委員意見の取りまとめ資料をお配りしておりますが、そのほか、先日、郵送にて送付させていただきました資料は本日お持ちでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>なお、本日お配りしております資料6と委員意見の取りまとめ資料は、委員さんお一人ずつのものか、項目ごとにまとめたものかの違いでございますが、ホームページに公表いたします正式な資料につきましては資料6のとおりとさせていただきます、氏名の入ったものにつきましては、本日御発言いただく際の補助的なものとして御活用いただければと思います。したがって、氏名ありのものにつきましては、会議後回収させていただきますので、あらかじめ御了承ください。</p> <p>本日の第2回審議会におきましては、次第にもございますが、アンケートやワークショップの結果速報、また、現行の前期基本計画の中間評価について御報告をさせていただきます、その後、各委員の皆様から市の現況等への御意見を1人3分程度でお願いしたいと存じます。この御意見の時間を14時15分頃より始めたいと考えております。そして、次回の第3回審議会におきまして、改正骨子案を御提示する予定でありますが、委員の皆様を2つのグループに分けさせていただき、その中で意見交換をしていただきたいと思いますと考えております。</p> <p>本日の会議は午後3時30分までとしておりますので、皆様方の御協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、次第に基づきまして進行させていただきます。</p> <p>次第2の挨拶に移ります。</p> <p>初めに、安藤市長、よろしくお願いいたします。</p>

<p>安藤市長</p>	<p>2 あいさつ</p> <p>皆様、こんにちは。市長の安藤でございます。</p> <p>本日は、第2回弥富市総合計画審議会を開催いたしましたところ、年末の大変お忙しい中、また、寒い中、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>委員の皆様方には常日頃から市政各般にわたりまして、それぞれのお立場で御支援と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。</p> <p>この後は着座にて挨拶をさせていただきます。失礼をいたします。</p> <p>さて、第1回総合計画審議会では、後期基本計画の策定方針や市民アンケート、中学生アンケート、市民ワークショップの実施方法など様々な御意見をいただき、御審議いただきました。まずは、後期基本計画策定の一步目を歩き始めたところでございます。</p> <p>本日の第2回総合計画審議会は、市民アンケート及び中学生アンケートに加え、御意見のありました職員アンケートを実施いたしましたので、その報告もさせていただきます。</p> <p>市民ワークショップにおきましては、全4回の開催で、参加メンバーが分野ごとに考えていただきました内容等を、オブザーバーとして御参加いただいた3名の審議会委員から感想等を交えながら御報告いただきます。</p> <p>また、前期基本計画の中間評価につきましても御報告させていただきます。</p> <p>さらに、審議会委員の皆様には、大変御負担をおかけしました弥富市の現況等に対する御意見につきまして発表していただきたく存じます。</p> <p>本日、これらを御審議いただき、整理の上、第3回以降の審議会に提出する骨子案につなげてまいりたいと考えております。委員の皆様方におかれましては、どうぞ忌憚のない御意見、御提言を賜りますようお願い申し上げますとともに、市政の進展のために変わらぬ御協力を重ねてお願い申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
<p>事務局（伊藤企画政策課長）</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、当審議会会長より御挨拶をいただきます。</p> <p>藤井会長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>藤井会長</p>	<p>藤井でございます。</p> <p>審議委員の皆様、それから市長をはじめ市役所の皆様、今日もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>座って失礼いたします。</p> <p>本日も緊張してここに座らせていただいております。私は、近鉄弥富駅からこの市役所まで来るんですけども、途中、今日、弥富巨大金魚イルミネーションというのを見つけて、近くに寄って写真を撮ってまいりました。そうしたら、ペットボトルがたくさん飾られておりまして、その中に中学生、小学生の皆さんのまちへの思いというものが書かれているのを拝見しました。中には、世界一の金魚のまちにしたいというようなことが書かれていたり、きれいなまちにしたいというようなたくさんの子供たちの意見というのが</p>

	<p>その場にかかれていました。ちょうどこの審議会に来る途中でしたので、改めてまちの未来を考えたときに、子供たちのためにというところを考えるのも大事だなと思った次第です。</p> <p>そして、本日の審議会の中では、事前に委員の皆様には大変お忙しい中、御意見を書いていただく宿題をお願いさせていただきました。たくさんの御回答をいただきまして、ありがとうございます。そして、この審議会の中で御発言をいただく時間というのも本日設けております。できるだけ堅くない雰囲気の中で御発言いただけるといいかなと思いますので、皆さんの貴重な御意見、お時間に限りはありますけれども、多数賜れればと思っております。</p> <p>そして、この審議会をもって報告がありますアンケート、ワークショップ、中間評価、そして委員の皆様御意見というものが集まって後期基本計画の骨子案が作成していけるかなと思いますので、本日も皆様の御協力の中、審議が順調に進められればと思いますので、御協力のほどよろしく願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
事務局（伊藤企画政策課長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここで、前回御欠席の委員の方より自己紹介をお願いしたいと存じます。</p> <p>まずは12番、伊藤恵造委員様、よろしく願いいたします。</p>
伊藤恵造委員	<p>前回欠席しまして、失礼しました。弥富金魚漁業協同組合組合長をしております伊藤恵造です。よろしく願いします。</p>
事務局（伊藤企画政策課長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、16番、釜田公良委員様、よろしく願いいたします。</p>
釜田委員	<p>中京大学経済学部教授の釜田と申します。前回欠席して申し訳ありませんでした。</p> <p>授業では経済政策という科目を担当しております。研究の専門分野といたしましては、財政学、公共経済学ということで、政府の経済活動を理論的に分析しております。</p> <p>実は以前、第2次弥富市総合計画審議会の会長を務めさせていただきまして、基本構想、そして前期基本計画の策定に関わりました。あれからもう5年ということで、早いものだなと思うんですけども、5年たったことには違いありませんので、記憶はかなり薄れています。今、復習をしながら記憶を呼び戻しているところです。</p> <p>そんな中でもはっきり記憶に残っているのは、その前回の審議会でも職務代理者をお務めいただいた入江先生と共々、財政規律に留意したということです。高齢化などによる財政の逼迫というのが非常に大きな問題でありまして、総合計画も市の理想の将来像を描きながらも、やはり財政的裏づけがしっかりないといけないということだと思っております。財政学者でもありますし、弥富市さんの行革の委員でもありますので、財政健全化という視点を忘れずに今回も臨んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願い</p>

事務局（伊藤企画政策課長）	<p>たします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、令和4年10月1日に教育長に就任いたしました高山教育長、自己紹介をよろしくお願いいたします。</p>
高山教育長	<p>改めまして、こんにちは。ただいま事務局のほうから御紹介ありました、10月1日より教育長を拝命しております高山典彦と申します。教員生活の最後、弥富市で校長をしておった御縁もあって、この職に就いております。委員の皆様方にはいろいろお支えをいただきながら、子供たちの未来のため、弥富市の未来のために励んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
事務局（伊藤企画政策課長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、次第の3、報告事項に移ります。</p> <p>ここからの進行につきましては、藤井会長の取り回しでお願いいたします。よろしくお願いいたします。</p>
藤井会長	<p>よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>次第の3、報告事項に移ります。</p> <p>（1）アンケート（市民、中学生）及び市民ワークショップの結果について、事務局のほうより御説明をお願いいたします。</p>
事務局（伊藤）	<p>3 報告事項</p> <p>企画政策課の伊藤と申します。</p> <p>それでは、初めに、アンケート結果について御説明いたします。</p> <p>着座にて失礼いたします。</p> <p>なお、アンケート結果に係る分析は、第3回審議会のタイミングでお出しいたしますので、今回は速報という形になります。</p> <p>まず、市民アンケートについてですが、資料1-1を御覧ください。</p> <p>9月13日から10月7日までの期間に、市内在住の16歳以上の方の中から無作為抽出した3,000名を対象に無記名式で実施いたしました。調査票は郵送でお送りし、回答は郵送かウェブのどちらかを選択していただきました。回収結果といたしましては、紙で651、うち白紙が1、ウェブ214の計864が有効回収数となり、回収率は28.8%でした。</p> <p>資料の下のほう、4の（2）にあります標本誤差についてですが、これは標本調査を行って、母集団値を推定する際に生じる標本値と母集団値との差のことをいいます。今回のアンケートにおける誤差率は、裏面にもありますが、4%以内となり、国が実施している調査では、標準誤差率を5%程度に抑えるよう設計されているともありますので、適切な</p>

範囲に収まっていると考えます。

次に、資料1-2、市民アンケート調査（結果抜粋）の資料を御覧ください。

こちらは、アンケート結果を抜粋して記載しておりますが、その中から一部を御説明いたします。

まず、弥富市に住み続けたいという人の主な理由は、日常の買い物が便利である、道路状況や交通の便がよいということでしたが、反対に、弥富市から転出したいという人の理由も同じ結果となりました。

市政に対する評価としまして、満足度が最も高いものでは、消防救急体制の強化が47.2%、反対に、満足度が低いものとして、電車・駅関連施設の利用のしやすさが30.9%でした。

重要度が高いものとして、防災対策の推進が84.1%とかなり多くの方が選択されましたのに対し、重要度が低いものでは、観光の振興が11.6%という結果でした。

続いて、現在の社会情勢等による暮らしへの不安につきましては、社会保障や災害対策のほか、コロナによる外出機会等の減少、物価高騰による支出増加も多くの方が選択される結果となりました。

総合的なまちづくりにつきましては、住環境整備、防犯・防災・交通安全対策、子育てへの取組を望む声が多い中、保健・医療・健康づくりにも力を入れてほしいという意見も多くありました。

続いて、中学生アンケートについて御説明いたします。

資料2、中学生アンケート調査（結果抜粋）を御用意ください。

こちらは、9月14日から27日までの期間で、市内の中学2年生380名を対象に学校経由で紙での配付、回収をしたところ、回収357、うち白紙23、よって334が有効回収数となり、回収率は87.8%でした。

調査結果といたしましては、弥富市に魅力を感じると答えた方は6割を超え、病院や福祉施設の充実との声が最も多くありました。一方、弥富市に魅力を感じないと回答した3割を超える方の理由として、イベントや遊ぶ場所が少ないという意見が多くありました。

住みやすさにつきましては、現在、約9割の方が住みやすいと感じているものの、将来も弥富市に住みたいと答えた方は2割弱でした。市外に住みたいと答えた3割を超える方は、その理由として、都会での生活に興味がある、イベントや遊ぶ場所が少ない、希望する就職先がないという回答が多くありました。

住みやすく、魅力的なまちとなるために必要な取組といたしまして、防犯・防災・交通安全対策、住環境整備のほか、駅前周辺活性や賑わい、交流の創出を望む声が多くありました。

最後に、次第にはございませんが、第1回の審議会を受けまして職員アンケートを実施いたしましたので、その結果を御報告いたします。

資料3、職員アンケート調査（結果抜粋）を御用意ください。

なお、職員アンケートにつきましては、産休、育休、病休などを除き、316名より回答を得ました。こちらは、主に市民アンケートと比較するツールとして、先々必要に応じて

活用したいと考えております。

中身につきましてですが、職員の市内在住者と市外在住者がほぼ半々という中、市への愛着は78.2%の方があると回答しましたが、住みやすいと答えた方は53.5%にとどまる結果となりました。

なお、弥富市に住みたいと思える理由として、道路状況や交通の便のよ良さが最も多く挙げられ、一方、住みたくない理由としては、地域行事や近所付き合いの煩わしさが最も多くありました。

市政に対する評価では、満足度が高いものとして消防・救急体制の強化が、逆に、満足度が低いものとして公共施設の手入れの行き届き具合や、電車・駅関連施設の利用しやすさが多く挙げられました。重要度が高いものとして防災対策の推進が、逆に、低いものとして観光の振興が挙がりました。

市民参画、協働のまちづくりでは、行政として広報・広聴活動の充実が必要との意見が多くあり、また、公共施設の整備・管理や公共サービスの提供への市民及び民間の参画・協働の促進が必要との意見も多くありました。

総合的なまちづくりでは、子育て、住環境整備、防犯・防災・交通安全対策が重要との声が多い中、若者の定住、就業促進や、企業誘致促進、企業活動支援にも力を入れたほうが良いという意見も多くありました。

アンケートは以上となります。

続きまして、市民ワークショップ結果について御報告いたします。

資料4、市民ワークショップ結果【速報版】を御覧ください。本日お配りした資料となります。

こちらアンケート同様、速報という形でお出ししておりますが、令和4年10月21日より、2、3週間間隔で開催いたしまして、第4回は、つい先日12月16日に終わったばかりでございます。

参加者といたしましては、公募市民12名、中京大学の学生6名、愛知学院大学の学生4名の計22名が3グループに分かれ、6つの基本目標について分野別の課題から順にやるべきこと、地域や自分であることを考え、意見交換等をしてしながら作り上げてまいりました。各グループ、模造紙に付箋で意見等を貼りつけ、それを整理したものがA3用紙のとおりでございますが、A4用紙に一部をまとめましたので、そちらを御覧ください。

なお、当審議会より、東嶋委員、今井委員、鈴木委員にオブザーバーとして御参加いただきました。この場をお借りしまして御礼を申し上げます。ありがとうございました。

それでは、各グループで出た意見を基本目標単位で御紹介いたします。

基本目標1では、災害時の避難場所にお寺や公園を含めて検討する、交通安全対策として通行対象を分けて規制を行う、ごみ集積について分別可能なりサイクルボックスを設置するなどが挙がりました。

基本目標2では、困り事に対して対応できる公式SNSの開設、地域差を解消するため乗り合いバスやタクシーによる交通手段の確保、また、スーパーとの協働による買い物支援、企業と連携した地域の見守りなどが挙がりました。

	<p>続いて、基本目標3では、高齢者と若者との交流を促進するため、学生がその間に入って関係をつなぐ役割を担う仕組みづくり、文化・芸術のオンラインイベントの開催、民間企業と連携し、話題性の高い大規模スポーツイベントの開催などが挙げられました。</p> <p>続いて、基本目標4では、障がい者等の働き場や店を集約する、各家庭や町内会と農家や農協をLINEでつなぐ直送システムの構築などが挙げられました。</p> <p>基本目標5では、公園の数が少ないため、駅近くに新たに造る、駅前に電子案内板や街路灯を整備し、駐輪場へ屋根を設置するなどが挙げられました。</p> <p>最後に、基本目標6では、公共施設管理に民間活力を活用する、公共施設に多言語翻訳機能を導入する、総合計画のPDCAをスピーディーに実行するためのデジタル化などが挙げられました。</p> <p>簡単ですが、各グループで出た意見は以上となります。</p> <p>ここで、オブザーバーという形でワークショップに御参加いただきました、先ほど御紹介いたしました東嶋委員、今井委員、鈴木委員の3名より、ワークショップに参加された感想等をお一人1、2分程度で発表していただきたいと思います。</p> <p>それでは、恐れ入りますが、東嶋委員より順にお願いいたします。</p>
東嶋委員	<p>4回のうち、1度出れなくて、3回参加させていただいたんですが、毎回、学生さん方がたくさん参加していただきまして、その中で出てくる意見というのが、やはり弥富市ではないところから参加していただいているということで、逆にこの弥富市をどんなところだろうかという形で意見をいただきながら、本当に素直な感覚でいろんな意見を出していただいたことが、もう一度弥富市の中を見直すきっかけになったなと思いました。</p> <p>その中で、市民の方々ですので、ワークショップの進め方もあまり分からない方もみえる中で、やはり非常に引っ張っていただいていたなということがありまして、本当にワークショップというのについては、今後も続けてやはり意見をいただくことによって、従来のものも大事なんですが、いろんな意見を聞きながら弥富が今後進むためには、こういう会はやはり必要だなということを感じました。</p> <p>以上です。</p>
事務局（伊藤）	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて、今井委員、お願いいたします。</p>
今井委員	<p>思っていた以上に皆さんの意見がたくさん出されたという感じを受けました。弥富市にお住まいの方も、学生さんで弥富じゃない学生さんたちの意見も、いろんな意見が聞けて私は本当に有意義な時間だったなというふうに感じております。</p> <p>4回目のワークショップで、地域や自分でできることを考えようという、課題に向けて自分たちがどういうふうに関わっていったら解決できるのかなというのを考えたんですけど、そのときに私も、私だったら、じゃ、どういうことを考えていこうかなというふうに自分事に置いてみたんですけど、365日、24時間しかない中で、自分が今やろうと思っ</p>

	<p>たら、僅かなことしか今できない。それに対して、やっぱり自分が今できることを真面目に取り組んでいくことが行動に移せることなんじゃないかなと改めて感じました。</p> <p>なので、やっぱり自分事に置くと、意見っていっぱい出るんですけど、自分ができかどうかと考えたときに、ちょっとストップがかかるというか、できない、でも誰かにお願いしたりとか、できる人、団体さんたちをお願いするとか、私たちがヤトミーティングという団体なんですけど、各団体の方々と交流を持って、その団体さんたちが得意とする分野とかを交流によって手助けしながらまちづくりをやっていくのが必要なんじゃないかなと改めて感じました。</p> <p>以上です。</p>
事務局（伊藤）	<p>ありがとうございました。</p> <p>最後に、鈴木委員、お願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>前お二人の委員のおっしゃっていることは本当に共感することばかりなので、それに加えてということになりますけれども、まず、ワークショップ自体に一応参加いただいたのが市民と学生さん主体でということで、あと、サポートでぎょうせいさんのファシリテーションが入って、あと、企画政策の皆さんというだけだったんですけど、できれば、やはりこれ、ワークショップ、総合計画のことなので、いろんな課の方が一緒になっていらっしゃるとうりありがたかったかな。</p> <p>というのは、無邪気な意見で市民から課題感あるのが出たものが、いや、実はそれ、もう弥富市取り組んでいますよということがあったりとか、こういう形では実現していませんみたいなことが本当はちょっと言えることもあったんじゃないかなというのはあるので、そういう意見を聞いたときに、それぞれの課のサポートに入っていれば、それはもうこういう形になっていますよと、その上でさらにもっとこうしたらいいとかというような、より突っ込んだ課題感というのが出るほうが、より実態に合わせて、そういう課題を議論することができるんじゃないかなと思うので、職員の皆さんがどう参加、形は想像できませんけれども、何か関われる、いろんな課の方が実際関われるワークショップになると、よりいいかなと思いました。</p> <p>それから、あと1点として、やはり市民のほうも課題と言われると、もうこの付箋の結果のあれもそうですけど、結構いっぱい出るんですね。ただ、それが回を追うごとに、じゃ、それをどう解決していくかということ、さらに自分事となると、なかなか付箋の数がやっぱりどうしても減ってくるんですね。</p> <p>これって、結局、市民のほうも、さっき今井さんもおっしゃっていましたが、時間がなくてなかなか自分でできないというところもある部分も確かにあるんですけど、市民のほうもまだまだこういったまちの課題解決に自分がやるんだという意識が、まだまだ意識が成熟していないというか、これまではずっと市のほうが市役所のほうでいろいろやってくれるんでしょうということの、課題だけ言っていればよかったのが、やはりこれから市民協働をどんどん進めていく、行政のほうもさっきの財政の問題もある、一体とな</p>

	<p>ってやっていかなきゃいけないということで、市民が、じゃ、何ができるかというところをより突っ込んでいくには、やっぱりこれを訓練として、先ほどもおっしゃいましたけれども、単発で終わるんじゃなくて、継続的にやっぱりずっと繰り返し繰り返し、いろんな市民を巻き込んで、自分たちでやっぱりまちの課題を解決していくんだというのを訓練としてこのワークショップをやっていくというのもある意味面白いんじゃないか、面白いというか、そういうのが市民にとってもためになるんじゃないかなと思います。今まではやっぱり文句だけ言って終わりみたいなところがあったところが、やっぱり自分たちで解決するという意識を醸成していくという形になるんじゃないかなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
事務局（伊藤）	<p>ありがとうございました。</p> <p>アンケート及びワークショップについての説明は以上となります。</p>
藤井会長	<p>御説明ありがとうございます。</p> <p>アンケート、市民ワークショップについて、委員の皆様、御質問あるいは御意見があれば、お願いいたします。</p> <p>清水委員、お願いいたします。</p>
清水委員	<p>アンケートの回収率 28.8%となっているんですけど、これって、一般的には住民アンケートの回収率としてはどうなのかというところと、あと、まだ速報ベースだとお伺いしましたので、もしまだ分析されていないようであれば、今日じゃなくてもいいんですけども、特に大学の先生方で、ほかの自治体なんかも見ている先生方も多くいらっしゃると思うんですが、ほかの自治体と比べて弥富市さんで何か特徴的な点とかはあるのでしょうか。</p>
藤井会長	<p>清水委員、ありがとうございます。</p> <p>お2つの質問、1つ、回収率というところで、28.8%の今回回収率というところが多いのかどうかというところが1つですよね。こちらはいかがでしょうか。事務局の皆さん、あるいは委員の皆さんでも。</p>
事務局（伊藤）	<p>回収率につきましては、今回、28.8%ということでしたけれども、前期計画のアンケートの回収率が30.5%、その前ですと、もう少し31.2%ぐらいと、徐々に下がってきてはいるという状況でして、今回、初の試みとしましてウェブ回答・回収というのを取り入れはしましたけれども、なかなか結果、この回収率の向上というところまではつながりませんでしたので、また、次回に向けて検討をさせていただきたいなと思います。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>そして、これから速報値というところで細かな分析はしていきますけれども、他の自治</p>

	<p>体との比較においてというところで、もし委員の先生、皆様方から御意見あればと思いますが、まず回収率のところは、私の1個の事例でしかないんですけども、大学のあるキャンパスのある自治体での回収率は、同じ3割ぐらいの回収率、全戸配布で行ったときは、1つの事例でしかないですけども、3割だったというのは私の関わったものであります。</p> <p>他の自治体のところは、私も十分そこは比べてというところは発言するのが難しいんですけども、いかがですかね。</p> <p>入江先生、お願いします。</p>
入江委員	<p>私も他の市町村ですけども、アンケート結果、大体3割前後かなというふうに記憶しております、今、はっきりと数字は申し上げられないんですけど、なかなか5割を超えるというのは見たことがなくて、回収率を上げるというのは課題だと思うんですけども、今回の調査でいうと、ちょっと残念だったのが3割を若干切ってしまったところが、少しデータの信用度としてどうなのかなというところはあると思いますけれども、僅かですので、それをどう捉えるかというところかと思えます。</p>
藤井会長	<p>八木委員、お願いします。</p>
八木委員	<p>私のたまたま知り合いで送られた方がいて、若い子なんですけど、たまたま見たんですけど、やらなくちゃいけないのかということをおっしゃっていました。ランダムだと思うんですけど、自分に宛てられた封筒じゃなくて、家に来たみたいな感覚で、これ、何だろうねということで、いきなり来て、よく分からないから適当に預かっていたと。僕、たまたま聞いたときに、せっかく弥富市にいるんだから、書いたほうがいい、また、ウェブもできるから、ウェブでやればいいよということ促したんですね。その彼、その後、ウェブでやったんですけど、いきなり送られてきて、何じゃこりゃというところで、封印していた子が多分まだ多くいるのではないのかなというところを目の当たりにして感じました。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今後の回収率を上げていくには、答えやすさというところも大事かなというふうには思います。</p> <p>清水委員からあった他の自治体との比較のところは、これから細かくアンケートを分析していく中で、他市のものも見ながらというふうにやっていけるといいかなというふうに思っています。御意見ありがとうございます。</p> <p>そのほか、御意見、御質問等あれば、お願いをいたします。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、次第、次の事項に移らせていただきます。</p> <p>現行計画の中間評価についてというところで、事務局より御説明をお願いいたします。</p>
事務局（山内）	<p>企画政策課の山内です。</p>

資料5、中間評価につきましては、私のほうから御説明させていただきます。すみません、時間の都合上、省略して説明する部分もありますので、御了承いただければと思います。

座ったままで失礼します。

では、まず、1ページを御覧ください。

初めに、第2次総合計画の進行管理につきましては、毎年度実施しております行政評価により、各担当課で掲げた施策や事業等の評価を行い、定期的に見直しや改善を行いつつ、10年間で目指す弥富市の将来像に近づけることを目的に行っております。

本評価は、計画策定の基礎資料とするため、各担当課の職員が自己評価を行ったものを整理し、計画策定に向けての方向を探るものになります。

この評価の対象としましては、総合計画に掲げる基本目標、施策目標、成果指標、市民等との協働による取組とし、行政評価結果を基に評価を行いました。

続きまして、行政評価による進行管理ですけれども、本市の行政評価は、総合計画の実施計画に記載している事業と施策を評価することとしているため、総合計画の進行管理は行政評価の場で行っております。総合計画をより実効性の高い計画とするために、毎年度、行政評価という形でPDCAサイクルを回し、進行管理を行っております。

また、この評価結果につきましては、行政改革の外部有識者会議におきまして、毎年度報告をしており、また、ホームページで公表することにより、客観性や信頼性を確保し、市民への説明責任を果たしております。

続きまして、2ページを御覧ください。

今回の評価方法についてです。先ほど申し上げましたように、基本目標、施策目標、成果指標、市民等との協働による取組の4つの項目で評価を行いました。

まず、毎年度実施している行政評価結果を基に、基本目標、施策目標ごとに過去3年分の達成度を平均して点数化し、進捗の確認と分野での比較を行いました。この達成度につきましては、2ページ下の表にあるとおり、AからEの段階で評価をしており、それぞれの達成状況に応じたものになります。

続いて、成果指標については、現時点で2028年度の目標値を達成しているかを確認し、後期計画において指標や目標値を継続するか、もしくは設定し直すかの確認を行いました。

最後に、協働の取組の成果を各担当課において評価を行いました。

続きまして、4ページを御覧ください。

ここからが評価結果になります。

まず、6つの基本目標の達成度を点数化し、比較したグラフになります。最も高かったのは、基本目標1、防災、消防、防犯、交通安全、環境の分野でした。一方で、基本目標3、教育、文化、スポーツの分野と、基本目標6、協働、行財政の分野の達成度が低くなっております。

続いて、5ページから10ページまでは、施策目標単位で比較したのになります。

まず、5ページの基本目標1につきましては、おおむね順調に進捗しておりますが、環

境対策の分野で、環境に関する取組の指針となる環境基本計画が策定できていないことなどの要因により、達成度が低くなっております。

続いて、6ページを御覧ください。

基本目標2になります。こちらもおおむね順調に進捗しておりますが、健康づくりの分野では、健康フェスタが新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったこと、特定健診やがん検診等の健康診査受診率低下などの要因により、達成度が低くなっております。

続いて、7ページ、基本目標3になります。

こちらは全体的に達成度が低い状況ですけれども、学校教育の分野では、個別施設計画に基づく学校施設の長寿命化改修が計画的に行われていることや、GIGAスクール構想の実現に向けて1人1台のタブレット整備と、その利用が促進されたことなどの要因により、他の目標に比べ達成度が高くなっております。

一方、生涯学習の分野では、生涯学習施策の総合的な指針となる生涯学習推進計画が策定できていないことや、生涯学習活動をサポートする指導者、ボランティアの育成や確保、地域における活動の支援ができなかったことなどの要因により、達成度が低くなっております。

続きまして、8ページ、基本目標4になります。

こちらはおおむね順調に進捗しておりますが、雇用対策の分野では、愛知県やハローワーク、地域若者サポートステーション等と連携し、就職相談や情報提供による啓発活動を行ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響で雇用の促進が図れなかったことなどの要因により、達成度が低くなっております。

続いて、9ページ、基本目標5になります。

こちらもおおむね順調に進捗しておりますが、公園緑地整備の分野では、公園緑地整備及び緑化を総合的かつ計画的に進めるため、その指針となる緑の基本計画が策定できていないことなどの要因により、達成度が低くなっております。

また、港湾地域の整備促進の分野では、新たなコンテナターミナルの確保や、魚釣り公園の整備、木曾岬干拓地の都市的土地利用など、市単独では進められないことなどの要因により、達成度が低くなっております。

最後に、10ページ、基本目標6になります。

こちらは全体的に達成度が低い中、特に市民協働の分野では、地域活動団体の交流及び活動の拠点となるスペースの確保ができていないことなどの要因により、達成度が低くなっております。

また、地域コミュニティの分野では、新しい生活様式を取り入れた地域活動及び『自治会・町内会加入促進ガイドブック』により、安心・安全な自治会活動に向けて情報発信を行ってしましたが、地域コミュニティのリーダーの育成や新しい人材の発掘については取り組めていないことなどの要因により、達成度が低くなっております。

以上が基本目標及び施策目標単位での達成度を比較した結果になります。

続きまして、11ページを御覧ください。

成果指標の点検と後期基本計画に向けての方針ということで、総合計画に掲げる成果指標の令和3年度までの進捗状況を確認し、目標値が達成できているかどうかや、指標をこのまま継続するか、もしくは再設定するかなどを整理しました。

ここから分かることは、全指標135のうち、①と②に当たる25の指標、パーセントでいうと全体の19%が目標値を達成しており、残りの110の指標、全体の81%が達成できていない状況です。残りの約80%の指標を一部再設定するものもありますが、どのように数値を伸ばしていくかがポイントになります。

続きまして、12ページ、13ページを御覧ください。

こちらでは、掲げた指標のうち、特に進捗が芳しくない成果指標を取り上げました。これらの指標は、前期計画策定時の数値と比較して伸びが感じられず、目標値の達成が困難と思われるため、効果的な対応策を検討し、目標値の達成につながる施策を進めていく必要があります。

また、新型コロナウイルスの影響により、数値が伸びていない指標が多く見られましたが、これらは要因がはっきりしているため、このピックアップからは外しております。

また、指標の分析欄に関しましては、各担当課が行政評価を実施した際に記載した内容を転記したのになります。

まず、1つ目、民間木造住宅耐震改修費等補助事業利用戸数です。

計画策定時の24戸から、昨年度は27戸となっており、目標値の45戸の達成は厳しい数値となっています。高齢者世帯の増加や費用的な要因で、耐震改修には踏み切れないのが伸び悩みの要因と考えます。住宅の耐震化に関心は高いものの、耐震工事をするなら建て替えを希望する人が多く、耐震化の進捗が進まないのが実情です。

続いて、2つ目、養育支援訪問事業利用者数になります。

こちらは、計画策定時の5人に対して、コロナの影響もあるとは思いますが、年々減っている状況になります。実態としまして、対象者から訪問を断られることがあり、思うように支援につながっておりません。ただ、乳幼児健診などの際に話を聞くなどして、保健師と家庭相談員とが密に連携し、支援が必要な家庭に対して、この数字には出てこない部分での支援はできているというのが現状です。支援を必要としている人がどれぐらいいるのかによって人数は変わってくるため、見方によっては指標を伸ばせばいいというものではないのですけれども、養育上の問題を抱える家庭に対して適切な支援を行っていくことは重要であり、様々な手法で適切に支援を進めていく必要があります。

続きまして、40歳以上の国保加入者を対象とした特定健診受診率です。

こちら数値はほぼ横ばいになっております。令和2年度はコロナ禍による受診控えがあり、健診受診率が低下しましたが、勧奨通知のデザインと内容を工夫したことで、若干ですが状況は回復しました。さらに、今年度はAIを活用した未受診者への勧奨を実施しましたが、具体的な成果についてはまだ検証できておりませんので、今後実施していく予定です。

続きまして、農業の分野で、担い手への農地の利用集積面積と、6次産業化への取組件数です。

利用集積面積につきましては、J Aが積極的に利用推進を行っているものの、農地転用等の理由により解約も多くなっており、2021 年度は前年度と比較して面積が減少しております。

6次産業化につきましては、コロナが要因と記載がありますが、市長の公約にも出てきていることから、今回取り上げさせていただきました。非常に難しい指標となりますが、現在、産業振興課のほうで話を進めているそうです。

次の14 ページから40 ページまで、こちらは各指標の実績値と、指標や目標値を継続するか否かが記載されているものになります。申し訳ありませんが、こちらの一つ一つの説明につきましては、時間の都合上、省略させていただきます。

最後に、41 ページ、少し飛びまして、市民等との協働による取組の成果についてになります。

第2次総合計画では、市民等との協働の取組を推進していくという方針の下、施策目標ごとに取組目標を設定し、主要施策で示す内容のうち、市民主体と考えられる取組、または、その実行に当たって行政支援等が必要と考えられる取組を抽出しております。これらの取組目標に対してどのような取組成果があったのかを記載しております。こちらも全てを説明すると時間がかかってしまうため、一部取り上げて説明をさせていただきます。

まず、基本目標1に関しまして、施策目標1の防災の分野では、市内の自主防災組織を集めて情報共有等を行う自主防災会全体会や出前講座において、事前避難対象地域の説明や自助、共助についての啓発を行い、防災意識の向上に努めました。

また、施策目標3、防犯・交通安全の分野では、保育所、学校、高齢者団体等と連携し、各季交通安全運動期間中に街頭指導を行って、市民への意識啓発に努めました。

続いて、43 ページ、基本目標2の施策目標1、子育て支援の分野では、児童課所管の部分で、児童館や子育て支援センターにおいて市民にボランティアで防災教室やリトミック教室などを行ってもらっております。ちなみに、審議会委員の東嶋委員には、市内の様々な子育て支援施設において、防災教室も含めて、防災に関する啓発活動を行ってもらっております。

続きまして、44 ページ、施策目標5、地域福祉の分野では、介護高齢課所管の部分で、地域からの相談に対して、障がい者や老人の徘徊、虐待など様々な困難事例などへの対応は地域ケア会議等で個別事例検討を行い、介護事業者、包括支援センターなどの各事業者と協力し、解決に向けての支援を行いました。

続きまして、46 ページ、基本目標3、施策目標3のスポーツの分野では、スポーツ推進委員との連携により、ニュースポーツの体験イベントなどを年2回開催しております。

また、その下、施策目標4、文化・芸術の分野では、生涯学習課所管の部分で、市文化協会加盟の団体が中心となり、文化展及び発表会を行ったことで、市民の文化力の向上に寄与しました。

続いて、48 ページ、基本目標4、一番上の施策目標1、農水産業の分野では、産業振興課所管の部分で、市内農家の協力により、市内のイベント会場で、担当課職員も一緒になって野菜や花きの即売会を行い、地産地消の推進を行いました。

	<p>続いて、50 ページ、基本目標 5、上から 2 つ目、施策目標 2、道路等の分野では、今年の 5 月より LINE アプリを活用して道路や公園の状況の写真や位置情報を送ることで、市へ情報提供をしてもらい、まちれば弥富を導入しました。5 月からの実績件数としては 39 件あり、市民の方から情報提供をいただいているところでございます。</p> <p>最後に、53 ページ、基本目標 6、施策目標 5、多様な主体との交流や連携の分野では、市民と大学や企業等との交流機会を増やすため、企画政策課が所管する計画を策定する際に、連携している大学の学生さんにワークショップの場に参加してもらい、市民と学生との交流機会をつくることができ、また、大学が持っている知的資源を市民と共有することができ、地域課題の解決に向けた取組の提案につながりました。</p> <p>かなりかいつまんでの説明になってしまいましたが、以上で中間評価の説明を終わります。</p>
藤井会長	<p>御説明ありがとうございました。</p> <p>現行計画の中間評価につきまして、委員の皆様から御質問、御意見等ございましたら、お願いいたします。</p> <p>(入江委員) お願いします。</p>
入江委員	<p>1 点だけお伺いしたいのですが、基本目標 3 の中の、ページでいうと、7 のところですが、説明の文章の中でも生涯学習推進計画が策定できていないということにして、後ろのほうの 46 ページのところでも、その資料収集は行ったものの、現段階で着手できていないということですが、これについてお教えいただけますでしょうか。</p>
藤井会長	<p>教育部長、お願いいたします。</p>
柴田教育部長	<p>教育部長、柴田でございます。よろしく申し上げます。</p> <p>結論から言いまして、まだできていないということで、要因としまして、様々な要因がありまして、これに十分な準備がまだ整っていないというのが現状でございます。この後期の期間中に作れるよう努力してまいりたいと、今担当の方としては考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
入江委員	<p>様々な要因があると今おっしゃった要因は把握していらっしゃるということですね。</p>
柴田教育部長	<p>はい。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>その他、御意見、御質問ございますでしょうか。</p> <p>釜田委員、お願いします。</p>

釜田委員	<p>参考までに伺いたい程度なんですけれども、特に進捗が芳しくない成果指標、13 ページの基本目標4、施策目標1の(6)ですか、6次産業化への取組件数ということで、ずっと1件なんですけれども、これ、具体的にどんな取組なのかを教えていただけないでしょうか、この1件というのを。</p>
藤井会長	<p>お願いいたします。</p>
伊藤建設部長	<p>建設部長の伊藤でございます。よろしくお願いたします。</p> <p>6次産業化への取組1件というのは、市内にある農家さんで、お名前を言ってもいいのかな。ごめんなさい、具体的なお名前はやめますけれども、その農家さんが自分のところで取れたお米をおにぎりとか、商品化して店頭で売るとか、そこまでを1つの業者さんがやっただいておる、または、穫れたお米等から石けんとか、香水だったかな、オイルかな、作られて販売とか、そういう取組をされているところはございます。そういうところで、6次産業化への取組件数1件というところは、具体的な例としてございます。こんな答えでよろしいでしょうか。</p>
釜田委員	<p>はい。ありがとうございました。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>まだまだ検討が必要な領域、大変な領域かと思っておりますけれども、進めていけるとすばらしいかなというふうに私も思いました。ありがとうございます。</p> <p>そのほか、御意見等、御質問はありますでしょうか。</p> <p>鈴木委員、お願いします。</p>
鈴木委員	<p>いろいろ聞きたかったり、言いたかったりする部分があって、何から言っているかがちょっと分からないんですけど、だらだらと聞いてしまっているのかな。</p> <p>まず、取りあえず聞きたいことが2点、それから、後で言いたいことを何点か伝えますね。</p> <p>1つは、確認ですけど、42 ページの環境衛生の充実で、一応、施策目標に対して取組して成果が出ましたよというのはテキストで記載いただいておりますけど、ついこの間のワークショップで、生活環境の部分の課題の基本目標1で、ごみに関しては結構な課題とやるべきことみたいな課題感を市民の方から突きつけられていますけど、このギャップはどう考えますかというところが1つ。</p> <p>あと、48 ページの商工業の振興とありますけど、施策目標2で商工業の振興で、商工会との連携により云々というのがありますけど、具体的に何をやったんでしょうかというところですね。それが質問2点です、取りあえず。</p>

藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>じゃ、まず、御質問のところからお答えいただければと思いますが、1点が42ページ、ごみの問題のところでは達成というところですけども、ワークショップ等で課題としても出てきたという部分で、どのように進められているかというところでしょうか。</p> <p>お願いします。</p>
伊藤市民生活部長	<p>市民生活部長、伊藤です。</p> <p>この42ページのところは、ごみゼロ、環境を整えようということで、ごみゼロ・一斉大掃除というのはやっていただいて、それをやって環境に努めたということでなっておるんですけど、今、意見としますと、ごみの収集のことになるのかなと思うんですけど、その辺、分別とかというのはやっておるんですけど、その問題点というのがごみステーションの話になってくるんでしょうか。その辺がよく、今、ワークショップの中で不衛生というところになってくると思うんですけど。</p>
鈴木委員	<p>ごみゼロはごみゼロで、活動は成果を出していますよというところの部分と、あと、一方、ごみ処理の部分に関しては、市民からは視点が違う部分で指摘をいただいているということの認識でいいですかね、そうすると。</p>
伊藤市民生活部長	<p>そうですね。</p>
鈴木委員	<p>その部分を、じゃ、今後どうしていくかというところですね。</p>
伊藤市民生活部長	<p>すみません。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>そういったところのポイントがこの後期の基本計画の中で事業実施項目等で検討していかなくちゃいけない内容になってくるかなと思いますので、そういった観点で骨子づくりも進められるといいかなと思いました。</p> <p>もう一点、御質問のところは、48ページの施策目標2の商工業の振興のところの具体的な取組についてというところが御質問内容かと思いますが、お答えいただけますでしょうか。</p>
伊藤建設部長	<p>建設部長、伊藤でございます。</p> <p>商工業の振興ということで、商工会との連携によりということですが、申し訳ございません、具体的な金額とか件数って、把握、今、手元にないものですから、イメージ的には、商工会と連携すること、または、商工会に補助することで、商工会を通じて新規事業の意欲があるような方について、県のいろんな制度がございますので、そういうところに御案内してサポートしたり、また、商工資金の借入れ等々につきましても、商工</p>

	<p>会が中心となって率先してそういう制度を利用できる窓口とかを御案内するというようなところを産業振興課と共に進めておったというところでございます。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p>
鈴木委員	<p>とすると、今の回答だと、基本、商工会に丸投げですよというふうに聞こえるんですね。なので、市としてはどういう取組をやっているのかというのがちょっと見えてこないのと、逆に、商工会に聞かなきゃいけないのかというところと、それから、商工会に入っているところはいいですけど、入っている率もちょっと分からないので、入っていない業者さんは、じゃ、どうしているのかというところも、どうされていくのかというのもちょっと見えてこない。僕も地元で企業経営をやっていますから、その実感として、弥富市の産業振興って何もないという感覚なんですよね。何もないというのは失礼なんですけど、特徴がちょっと見えません。もちろんそういう今回のコロナの支援とか、認定とかというのは、制度としては取組はしっかりやっていたというのは認識しています。ただ、それを一歩進んで、じゃ、本当に弥富市の産業をどうしていくんだというところがなかなか見えてこないというのは、すごくもやっとしています。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>鈴木委員の実感としてあるところの御意見かなと思います。今後の産業振興の部分で、これも後期の中でしっかりと考えていくべき内容になっていくのかなと思いますので、商工会、商工業の振興、商工会の支援というところと制度の推進というところもあります。具体的に各企業さんへのアプローチというところも後期の中でしっかり考えていけるといいのかなと思います。ありがとうございます。</p> <p>その他、鈴木委員、御意見等はよろしかったですか。</p>
鈴木委員	<p>大丈夫ですか。時間を使ってすみません。</p> <p>意見というところでいくと、1つは、例えば成果指標のところ、人数とか、利用の件数とかを挙げていただいているんですけど、そういうのって、中身が見えにくいというのと、見えにくいというのは、同じ人が繰り返し使ったら、もうそれはどんどん件数としては上がりますよねと。そうじゃなくて、やっぱり新規とか、まだ利用されていない方がより利用されることになったというほうが、成果としては上がったのかなという感覚を持つんですけど、だから繰り返し誰か特定の人だけがずっと行政サービスを受けているということなのか、いや、そうじゃないよということなのかもちょっと見えにくいです。</p> <p>あと、とにかく数が上がればいいのかという感じもちょっと、そこを評価しちゃうと、実際利用してみてもどうなんだという満足度の問題がどこも拾われていないので、実際使ってみてどうだったというところが、それも評価としてどうなんだろうというところですね。数が増えていけば、それは満足いただいているから増えているんだという解釈だということではいけないのかもしれないんですけど、ただ、実際使われている方の声という</p>

	<p>か、満足度指標というのはちょっとあってもいいんじゃないかなと思います。</p> <p>あとは、この全体の中間評価ですか、これ、多分、前期の審議会のメンバーの方から附帯事項で、すごいPDCAをしっかりと回せみたいなのがあったと思うんですけど、なので、座長がいらっしゃるからいいのかもしれないですけど、前回の審議会のメンバーさんの意見を聞くとか、そういう機会があってもいいんじゃないでしょうかというのは思いました。</p> <p>以上です。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>御意見いただきました。目標数値のところは恐らく一個一個細かく見ていけば、また違う指標が出てくるのかなというふうに思います。数値で出すと、このように出すというところが結果としては出てくるところかと思えますけれども、いずれにしても後期を考えるとときに、それぞれの重点的なところについては深掘りして数値を見ていくということも、今後の分析の中では、鈴木委員がおっしゃったように、大事な部分かなと思います。</p> <p>そして、前期からのPDCAサイクルを回すというところは行っていることかなと思いますが、こちらは事務局から説明をしてもらったほうがいいですか。</p>
事務局（伊藤企画政策課長）	<p>企画政策課の伊藤でございます。</p> <p>総合計画のPDCAサイクルは現状どういうふうに回しているのかとか、それから、今後の計画でどういうふうに回していくのかについて御説明させていただこうと思えます。</p> <p>現状につきましては、中間評価資料の中で御説明させていただいたとおり、総合計画の進行管理は行政評価という形で行っています。毎年度1、2月頃に次年度の総合計画実施計画を策定しておりまして、そこがPDCAのPという部分になります。その後、1年間のD○があり、翌年の夏頃にD○のチェックを各課に行っていたいております。その際に実施計画事業評価では、事業費の実績額とその指標の数値を示しまして、指標の分析及び事業の必要性、効率性、妥当性、施策の貢献度、今後の方向性を担当課で検討しまして、シートの作成を行っております。また、施策評価におきましては、施策単位での1年間の成果と反省点、達成度を説明しております。最後に、アクションの部分では、令和2、3年度では、評価結果を基に企画政策課で担当課とヒアリングなどを実施しまして、事業等の実態を把握するとともに、予算査定の際の基礎資料としても活用しております。また、担当課におきましては、評価結果に基づきまして、事業の方向性や改善するところなどを次年度の事業に生かしている状況というのが現状でございます。</p> <p>以上でございます。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>前期の基本計画の審議会の中でも多く、PDCAをしっかりとチェックをして、次につなげるという御意見は多数出ていたかなと思います。そのような意味で、1月、2月に実施</p>

計画を作成した後に、1年間の実施期間を経て、翌年8月、夏にチェックをして、それを基にヒアリング等、アクションを起こしているというのが進めている内容かなと思います。

あと、お時間等もごございますので、まだ、もしこの中間評価のところでの御意見等ございましたら、審議会が終わってからでも御意見いただければ、それに基づいてまたお答えするところも次回のこの審議会の中で共有をしっかりとさせていただいて進めていければかなと思います。貴重な御意見ありがとうございました。

それでは、次の審議事項に移らせていただきます。

次、4番目になります。

審議会委員御意見等について、まず、事務局のほうから御説明をお願いいたします。

#### 4 審議会委員ご意見等について

初めに、委員の皆様方には、公私とも御多忙の中、弥富市の現況等に対する御意見を御提出いただきまして、誠にありがとうございました。依頼文に配慮が欠けており、1項目だけの記入でよいのか、また、全6項目が必要なのか分かりづらく、また、専門分野以外の事項について書きづらい部分があったかと思えます。御迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。

さて、この御意見を伺うことの目的といたしましては、専門の分野等で御活躍されております皆様の御意見をお聞きすることで、アンケートやワークショップなどによる市民の声と併せて、これからつくり上げていく改正骨子案や施策、事業に結びつけていければと考えております。

本日はお時間にも限りがございますので、お一人3分程度で、御提出いただきました御意見のうち、特に述べられたい項目につきまして順に御発言いただきたいと思えます。3分を目安にアラーム音を鳴らさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

なお、皆様よりいただきました御意見につきましては、市側で整理し、担当課へ照会、検討いたしますので、御承知おきください。

それでは、藤井会長、取り回しのほうをよろしくをお願いいたします。

御説明ありがとうございます。

3分程度というお時間の縛りはございますが、皆様、お書きいただきました御意見のところを基に御発言をお願いできればと思えます。

そして、発言いただく順番ですけれども、会員名簿の順番で御発言をお願いしたいなと思っております。ですので、ぐるっと回って、こうなるような感じの順番かなと思えます。

本来であれば、お一人一人の御意見に対していろいろと議論したいところではありますが、今日は皆さんの御意見をまずいただくというところがメインのこの事項になりますので、皆さんの発言を大事にしたいなと思っております。

それでは、順番をお願いいたします。

まず、女性の会副会長の鬼頭委員、よろしく申し上げます。

事務局（伊藤）

藤井会長

<p>鬼頭委員</p>	<p>女性の会の鬼頭です。よろしくお願ひします。</p> <p>先日、会のほうで、個人的な意見というより、会長にもこの部分を相談しました。私だけの考えは分かりかねたところも。あまり長々になります。</p> <p>人口減少と少子化、高齢化進行というのは、どこの市にも限らず、全国的に今あるというものです。その中で実際に人口が増えている自治体もあるかとは思われますが、弥富市は、だんだん人口も減って、高齢化とか、そういうものが進んでいると思います。</p> <p>新たな魅力のにぎわった交流地点の整備として、やはり市の顔、玄関、駅とかを整備すれば、現在ある金魚のPRとかにつながるのではないかというものです。</p> <p>市民協働の推進、協働まちづくりの推進には、やはり今回、コロナ禍が結構長く続いて集まる場所が少なくなったこともあって、人と人のつながりが薄くなっているの、各団体なども会員数の減少につながっているような気がします。市として、コロナ禍で中止してしまうものではなく、やはりこれから進んでいくためには、これからいろんなものを開催していくかを前向きに行ったほうがいいかなと思います。</p> <p>災害に対する取組の推進は、年に1回はやっぱり市全体で防災訓練、今、ずっと流れてしまっているのが傾向なので、大事な部分だと思うので、高齢者とか、障がい者などの情報とかも、そういう場所があると連携も取れるのではないかと思います。</p> <p>多様化教育・保育ニーズは、これも難しかったのですが、GIGAスクールでは教員の知識が必要になってくるので、多忙な教員にその時間が取れるのかが問題だと思います。保育所なども現在、民営化が進んでいると思いますが、それも望ましいことかと思われます。</p> <p>あとは、中止、中止で前に進んでいないので、現在、ないものを求めるのではなく、今、あるべきものがもう少し進んでいけば、例えば金魚をいかにPRしていくか、ないものを生み出すより、今あるものをもう少し大きく膨らんでいくようなことをしていったほうがいいんじゃないかということ。</p> <p>6番に関しては、専門分野ですのあまりよく分かりませんが、協力でやっていけばなどは思っております。</p> <p>拙い意見でどうも失礼しました。</p>
<p>藤井会長</p>	<p>鬼頭委員、ありがとうございました。</p> <p>それでは、順番に御発言のほうをお願いさせていただきます。</p> <p>商工会長の伊藤様、お願いいたします。</p>
<p>伊藤肇章委員</p>	<p>商工会の伊藤でございます。</p> <p>先ほどの鬼頭委員と一緒に、私どもも三役で少し考えてきました。これから少子高齢化、また、住み続けるためのできない項目となります。</p> <p>商工業の振興について、商工業の成長と持続的発展につながる購買システムの構築ということで、近年、大型店やコンビニ、フランチャイズの飲食店が増加する中、既存の小</p>

売店や飲食店が衰退しております。今後訪れる高齢化社会では買い物難民が増加すると思っています。買い物難民者には、ネットワークによる購買システムの構築だとか、また、移動販売車を行う事業者への支援をして、住民に優しいまちづくりを目指して、地域商工業者への発展と持続的経営につながると考えております。

実は、コロナが始まったときに、キッチンカーでこういった移動販売をやったらどうかという方もみえました。そういったことも利用して、これからはやっぱり、先ほど言いました高齢化、一人住まいの方とか、そういった方のことも多分、少しずつ出てくるのではないかなということで、そういう支援もしていきたいと思っています。

また、2番、創業者支援の取組強化についてですが、先ほど市のほうからもありましたように、新たに起業する方や、第二創業を検討している方への支援、また、起業後の支援を充実させ、創業する方に弥富市を選択してもらえる取組の確立が必要だと考えています。支援策として、開業資金や家賃に対する補助、また、その店を利用した住民に対する補助など、市民と共に創業者を育てる仕組みづくりが必要と考えております。

3番としまして、地域資源を活用した弥富ブランドの確立。特産品である金魚や文鳥、また、農産物を親しみのあるキャラクター、きんちゃんの活用により、新商品の開発を進め、メディアを積極的に活用し、定期的に内外へ発信したいと思っています。統一した弥富ブランドを発信するための拠点づくり、また、商品の販売店の確保などの支援と、販売後の検証などを一貫して行うことで、商工業の振興につながると考えております。

以上です。

藤井会長

ありがとうございます。

ちょうど3分になると音が鳴るということで、その場で止めずに、御発言いただければと思いますので、目安の3分というところをお願いいたします。

伊藤委員、ありがとうございました。

続いて、社会福祉協議会理事の児玉委員、お願いいたします。

児玉委員

こんにちは。児玉です。

1番については、結婚支援についてはITを導入して、独身者は登録を促すということで、やはりこれは結婚している方から見たら、独身者が多いと思いますので、ぜひお願いしたいなと思います。

男性がなかなか結婚が成功する例がないものですから、どうしたら結婚できるかなというのを研修とか、教育とか、そういう方向性がよいかなと思いました。どうやったら女性をゲットできるかということがいいかなというので出させていただきました。

今までは男性が弥富出身で在住とされていましたが、反対の発想で、女性は弥富で、男性は他の市町村で、移転していただければいいかなと思いました。

弥富市の主催イベントの婚活、賞品、また、お祝いなどですけど、何年かは市民税を1人分免除させていただいて、固定資産税も安くする処置を取る方法とか、何らかの補助があると、移住者は多くなるかと推測します。もちろん子供多数の世帯はお金がかかります

ので、それらの税金を安くしていただくのが一番人口を増やす糸口になるんじゃないかなと思いました。

働く女性が多くなってきていますので、子育てがしやすい環境は必須で、女性の立場に立って、今、何の援助が必要か、個々のニーズを引き出すサポートが必要かと思います。

あと、2番ですけど、弥富市に何が足りないか。観光すると宿泊は必要。弥富にはないのではないかと、私には思い当たらないんですけど、高速下の周辺にビジネスホテルの建設を促す努力を弥富市職員が営業して携わっていただけるといいかなと思いました。

あと、名古屋競馬場からのリターンの馬を馬車にして観光巡り、そのまま弥富市内の観光コースを入れ込み、長島温泉に行くコースを作るなど、目玉にするイベントに合わせ観光するなど、JR・名鉄弥富駅、それらの自由通路及び、事業については災害シェルター、核シェルターを兼ね備えた店舗施設を開設して、弥富を利用、買い物していても安心・安全というのをアピールしていただけるといいかなと思いました。

その際に、周辺にはクリニックの開設及びスーパー以外の商店、個人の出店を促し、歩いて買い物ができる高齢者独居の居住も兼ね備える役割を果たすのがいいかなと思いました。その高齢者の空いている家、そこら辺は宿泊施設にしたりとか、いろいろな分野で貸出しというふうで展開していくといいかなと思いました。

3番ですけど、観光するなら自転車、無料で、雨が降ったなら傘が必要。観光先のところに返納可能なシステムをつくって、リサイクルを再生利用するのがよいかということで終わりたいんですけど、あと、子供の居場所づくりをやっていただきたいなと思います。あと、紙に書いてありますので、よろしくお願いします。

藤井会長

ありがとうございます。

御発言いただく内容と紙のところの御記入のところはもちろん大事な御意見としてお受けいたしますので、3分のところの縛りがありますが、すみません、よろしくお願いします。

児玉委員、ありがとうございました。

それでは、農業委員会長の佐藤委員、お願いいたします。

佐藤委員

農業委員会長の佐藤です。よろしくお願いします。農家もなかなか結婚できない独身男がいますので、よろしくお願いしますと思います。

私は、6番、農水産業というところで、農業の関係で話させていただきたいと思います。

ここに書いてあります、農業への新規参入者の育成が急務、農地の流動化とともに相談者の技術サポート、資金、地域の受入れ体制、そういう体制が必要である。

ここで書いたのが、今、弥富の中の農家人口800戸で、そのうち、販売に少しでも関わっている人は約半分、専業農家は80戸ぐらいなんです。その農業に取り組んでいる人の平均年齢はもう64歳。これ、去年か一昨年の統計ですので、もっと上がっていると思います。その中で、今、20代、30代の若者は、ほんの数えるほどしかいないということで、他地域か、弥富の中でも農家以外の人の農業をやりたいというところを支援できる体制

を、行政なり農協なり県の関係とか、そういうところでそういう体制を取り組んでいただきたい。今後、平均年齢がどんどん上がっていくと、食料自給率とか、そういうのもどんどん減っていっちゃいます。弥富の中で水田というのに関しては、今、受託部会というのがありまして、そこではほぼ100%に近いぐらいの水田の生産量というのがあります。だけど、それ以外の野菜とか花とか、そういう関係に関しては、もう本当に次の世代がないので、その辺をしっかりと支援していただきたいかなと思います。

それから、農業だけではないですけど、コロナとか今の原材料価格の高騰で、いろんな産地の存亡というか、結構かかっていますので、そういう支援が、体制が取れればありがたいと思います。

それから、3つ目、農業委員の中で話していたときに、文鳥の話が出てきまして、佐屋高校が今、文鳥の繁殖をしているんですけど、かつては弥富は文鳥の産地だったんです。そこで、まだそういう施設が若干あるうちに、復活ができないかなという意見が出ましたので、ここに書いてみました。文鳥のイベントはあるみたいですけど、よろしく願います。

以上です。

藤井会長

佐藤委員、ありがとうございました。

続きまして、名古屋港管理組合企画調整室の葛山委員、お願いいたします。

葛山委員

名古屋港管理組合の葛山です。私ども、名古屋港の港湾の管理運営を行う団体でございます。主に海側から見た臨海部での取組というところで意見を述べさせていただきたいと思っております。

まず、1番、人口減少、少子高齢化という部分でございますが、弥富市南部には多くの企業さん、立地していただいております。特に臨港地区においては、基本的に住居の立地は難しいという中で、日本を代表される航空機メーカーさんであったりですとか、港湾運送事業者さん、多くの事業者さんがいらっしゃいます。本社は名古屋市内にいたり、岐阜にあるようなメーカーさんがいらっしゃるという中で、やっぱりこういった方が臨海部に近接したところで住めると、非常に職住近接というような、家にも早く帰ることができますし、通勤時間にストレスを感じることもないと。名古屋から通勤すると、結構な時間がかかってくるという中で、そういう方が住まれるような何らか環境というのが整うと、自治体としても人口増加につながっていくのじゃないかなという意見でございます。

また、2番の新たな市の魅力、また、5番の多様化するニーズというところで、同じように臨海部に立地しております企業集積、こういったものを生かしての産業観光、こういったところにスポットを当てられてはいかがかなというところでございます。

例えば、工場見学ツアーみたいなものであったり、最近ですと、工場夜景クルーズ、近隣の自治体さんでも取り組まれているところ、いらっしゃるというところ、こういうようなところを観光資源としての活用であったり、社会見学という形で、いわゆる地元企業に関心を持っていただくとか、また、このまちが中部産業に、中部地域の経済にも寄与

しているという、こういうイメージアップの効果もあるのではないかと思う次第でございます。

また、弥富市の南部地区、臨海部には、アジアの貨物を取り扱う鍋田埠頭コンテナターミナル、大変取扱いの多い、日本でも屈指のコンテナターミナルでございます。また、その背後には伊勢湾岸自動車道、東西に横断する非常に物流にとっては立地環境のいいところでございます。

港内においては、私ども、こういった産業集積を図るべく、用地造成というのは進めているところでございますけれども、埋立てによる土地造成、非常に整備には時間を要するというところで、一方で、伊勢湾岸自動車道の近隣ですと、昨今、物流センターが相次いでオープンされている、非常にこういう企業立地のポテンシャルが高いエリアだということで、産業立地の促進、こういったものを図られることで、雇用の創出でありましたり、取扱い貨物の創出、こういったものが図られるのではないかとというところで、商工業の振興というところに寄与するのではないかと考える次第でございます。

以上でございます。

藤井会長

葛山委員、ありがとうございました。

続きまして、津島公共職業安定所所長の南谷委員、お願いいたします。

南谷委員

ハローワークの南谷と申します。よろしく申し上げます。

1番の人口減少、少子高齢化の進行というところをちょっと記載させていただきました。急速な少子高齢化が進んでいく、労働力人口、生産年齢人口が減少していくということが予測されております。

ハローワークにおきましても、高齢求職者の方、特に65歳以上の仕事を探して来られる方、見える方というのが増加傾向にあります。資料のほうにもございますように、3年前と比較しましても、占める割合というのがかなり高くなってきております。今年の9月でいきますと、この1か月間に新規に仕事申込みされた方、全体で705人いました。その中で、65歳以上の年齢の方については126人ということで、17.9%の割合であったと。3年前が13.1%ということですので、かなり上がってきているというところであります。

高齢者の占める割合が高くなってきている要因としましては、まず、高齢法の中で今、65歳までの雇用確保措置が義務づけられているということと、あとは、その法令の中では、昨年4月から70歳までの就業確保措置というのがまた努力義務として施行されておりますので、これが行く行くもし義務化されれば、さらに年齢は上がってくるのかなというところが考えられます。

あと、65歳以上の方であっても、新たに労働者となった方についても雇用保険の加入対象となるということが、平成29年の1月から法が変わったことによって、65歳以上の求職者の方が増えた要因の1つでもあります。

こうしたことから、65歳以上の高齢者の方が占める割合が増加する中、同時に職を求める方が当然増加することが予測されますので、高齢者の皆さんが豊かな生活を営む

上でも、就業機会の確保、できる体制づくりというのが重要なのかなと。ですので、企業誘致等を含めて、地域を挙げて雇用の創出というのが必要になるのかなというふうに考えております。

ちょっとまだ時間があるのであれなんですけれども、ハローワークでもセミナー等も開催をしております。就職に向けたセミナー開催をしております、そうする中でもやっぱり高齢者の方の参加を希望される方が非常に多いということがあります。

あと、高齢者の方が年々増加をしているということもありまして、先月、11月11日にハローワーク主催の就職フェアというのを開催しました。その際に、高齢者の方、多数お見えになるだろうということもございまして、今年度、シルバーさんもその会場のほうに呼びまして、高齢者の方がワンストップで職業相談できる、そういったことを場としてうたい文句で集客を努めたところであります。

以上です。

藤井会長

南谷委員、ありがとうございました。

続きまして、海翔高校校長先生に加藤委員、お願いいたします。

加藤委員

海翔高等学校の加藤でございます。

教育界の代表として参加させていただいておりますので、私からは教育に関わる内容について1点に絞って述べさせていただきます。

少子化による生徒数の減少への対策と教職員の働き方改革の促進を目的に、来年度以降、休日の公立中学校の運動部活動が段階的に地域移行されると発表されております。先日見直しを検討するとの報道もNHKからありましたが、現段階では、今後3年間で改革集中期間と位置づけられているため、全国の自治体では順次、休日の公立中学校の運動部活動の地域移行が進むと思われま。

ただ、先日、先行実施した102の自治体では、様々な課題が浮かび上がったとの報道を目にいたしました。例えば、信頼して指導を任せられる外部指導者を複数の競技種目で確保できるかどうか、受皿として想定されている総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、民間企業等、委託できる団体を確保し、生徒が希望する全ての競技種目の活動場所の確保ができるかどうか、学校部活動では発生しなかったスポーツクラブの会費や施設使用料に係る家庭の金銭的な負担の問題、これまで中学校体育連盟が主催して学校単位で参加が認められていた試合にクラブチームが出場できることになる問題、平日は教員が指導し、休日は外部指導者が指導することから来る指導の継続性の問題、休日の大会の引率指導は外部指導者が担うという問題、学校の管理外で発生した事故やけが等に対する対応と、その責任の所在等々、問題は山積しております。

弥富市でも来年度以降、休日の公立中学校の運動部活動の地域移行を順次進めていかれると思いますが、今申し上げたような様々な課題を解決し、これまで学校で行っていた部活動のように、全ての生徒が希望する競技種目を選択でき、お金の心配をせず、継続的に活動できる仕組みを構築する必要があると考えます。

	<p>以上です。</p>
藤井会長	<p>加藤委員、ありがとうございました。        続きまして、海南病院院長の奥村委員、お願いいたします。</p>
奥村委員	<p>海南病院の奥村でございます。</p> <p>私は医療機関からの委員ということで、まず、4番、災害に対する取組の推進ということで述べさせていただきますが、海南病院は、地域中核災害拠点病院に指定されております。我々のところでも災害発生時の対応ということで、定期的に訓練等で備えはしておりますが、やはりいつも思うのは、例えば物資の輸送とか、そういうことは病院では何ともならない部分があるなということで、行政、医師会、それから病院を中心にして役割分担を考えて備えておくというような考え方で準備を進めていくことが必要じゃないかなというふうに感じております。</p> <p>それから、3番の市民協働の推進のところですけども、2018年、私どもの病院が創設80周年ということで、しばらくやっていなかったんですけども、オープンホスピタルというものを開催いたしました。これは、特に我々が力を入れたのは、地元の子供さん向けに、この地域に根づいていただいて、将来、医療の分野で一緒に働けたらというようなことを考えてやったんですけど、普段見ていただけない病院のいろんな部分を見ていただくという企画で、非常に好評をいただきました。これから、こういうふうに関わられた病院ということでこういう企画を考えていって、そこにいろんなところからお力添えをいただければなというふうに思っています。</p> <p>それから、医療機関からの委員ということじゃなく、一般委員として2つ考えたことを書かせていただきましたが、1つは、やはり意見が出ていますように、名古屋の中心と弥富を結ぶ強力な交通手段の整備が必要じゃないかなというふうに思います。それから、さらには、各地から弥富中心部へのアクセス、そのためにはやはり中心となる総合ターミナル的なところで、そこにはやはり宿泊施設を造っていただきたいというふうに考えております。</p> <p>もう一つは、やはり大学ですよ。大学があるまちというのは、何となくやっぱり活気があるという印象を私は持っております。弥富市にも大学が誘致できないかなというふうに前から思っております。そういうところで大学を誘致すると、そこで育った若い人たちが定着するということも増えるのではないかなというふうに思いますし、そのためには、やはりインフラですよ、名古屋の中心と弥富を結ぶ強力な交通手段。特に高速を走っていると、桑名なんかから、本当に頻回にバスが走っているんですね。ああいう頻繁にバスを走らせるということも1つの手段なのかななどと考えたりしていました。</p> <p>以上です。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。奥村委員、ありがとうございました。        続きまして、鍋八農産代表の八木委員、お願いいたします。</p>

八木委員

私、有限会社鍋八農産の代表の八木と申します。

産業界ということで、私は国が示す担い手という立場の農家として意見を述べたいと思いますが、それと同時に、弥富市の一番最南端に住む市民としても、まとめてちょっとお話ししたいなというふうに思っています。

まず、市民としては、私 51 年間しぶとく弥富市に住んでいまして、当時、小学校までは 3 キロと、中学校までは 7 キロ、8 キロを自転車で、小学校は徒歩でしたけど、とてもじゃないけどその頃、多分、仲間も多かったのでまだやれたんですが、今見ていると、通学している方々も大分少なくて、とてもじゃないけど歩けないし、とてもじゃないけど中学校まで行けないと。いつか弥富市を出てやろうというところをずっとたくらんでいました。そんな中、私の会社、親が営む会社が弥富市の南にあるということで、自宅の付近にあるということで入ったわけなんですけど、しぶとく住んだ中でインフラ整備がされて、湾岸高速道路ができて、初めて、あっ、弥富に住んでよかったなと。車を持って初めて、こんなに便利なまちなんだというところを気づきました。

ただ、何にしても田舎、南部、一番最南端ですので、南には工業団地ということで、病院施設もほとんど少ないという中で、今後、市民としてここに住んでいて、いかにインフラ整備とか、病院に行くにもなかなか行けない、または、買い物に行くにも行けないという中で、免許証を返納したときに、どういう生活がこの先待っているんだろうというような心配がありますので、そういったことの整備等々考えて御検討していただけると大変ありがたいかなというふうに思っております。

もう一つは、産業界としての立場として、私、お米を作っているわけなんですけど、弥富市は全国でも有数な早場米のエリアです。新聞等々とか、テレビにも出るぐらいな本当に有名なお米の産地であります。そんな中、やはり、今日お見えではありませんが、JAさんを主体としてやっているんですが、生産者としては、弥富市に住んでいる以上、JAではありません。ですので、弥富市としてのお米として、今日も金魚やお米、農業という話も出ていましたけど、弥富市としてのお米の価値とか、評価を出していただいて、弥富市のお米としての宣伝、また、こういうのをいろんなものを生かしてやっていただきたいなというふうに考えております。

また、近年、農業もいろんなものがDX化されまして、GPSだとかを活用して低コストということを今、重視しております。国もそういった形で動いていまして、ただ、じゃ、弥富で改めて農業をやろうと、先ほども農業委員の佐藤委員からもありましたが、果たしてやりたい人間がいるのかということなんです。今、私仕方なく弥富市でやっていますが、ここで新たに来いと言った方が、じゃ、誰が来るかと。今日の資料の中で、成果指標の中で、弥富市で 1,600 ヘクタールほどの農地がある中、まだ 900 ヘクタールというところがあります。これがまだかなりの面積があるので、果たしてそういったことで魅力ある農業のまちがつかれるかということで、そういった整備のほうもよろしくお願ひしたいというふうに思います。

以上です。

藤井会長	<p>八木委員、ありがとうございました。</p> <p>それでは、続きまして、弥富金魚漁業協同組合、伊藤委員、お願いいたします。</p>
伊藤恵造委員	<p>私、名のとおり金魚漁業協同組合ということで、地場産業でございます金魚の現状と今後の展望というか、そういうのでちょっとお話しさせていただきますけれども、もともと金魚は、稲作の兼業農家という形で金魚が昭和の後半にどんどん増えて、昭和50年には、弥富と、それから十四山、飛島、愛西、津島、愛知県内で5か市町村で321軒という組合員がありました。ほぼ弥富で200軒近くあったわけですが、平成に入ってから毎年約5軒ずつぐらい脱退者が出て、というのも、やはり年々趣味の多様化ということで金魚離れ、我々が子供の頃はどこの玄関をくぐっても水槽が置いてあって、どこでも金魚が飼ってあったというのが現状でしたけど、もう今ほぼありませんね。そういうので金魚離れというのがありますけれども、当然、金魚は単価が上がれば後継者が自然とできるわけですが、やはり金魚が売れない、単価が安いということで、後継者不足というのと、それに年々、高齢化が進んで、今、現状では約60数名、弥富だけでいうと約52、3軒ぐらいになってしまいました。それを現状、打破するとか、食い止めるためにも、コロナになってから3年間、本当に弥富市の行政の方にたくさん、毎回毎回約30名ほど、市長も本当に先頭を切って出させていただいて、県内いろんなところへ、年間5、6回か7回ぐらいずつ、金魚のPRを含めて金魚すくい、それから金魚の学校等でPRをしてきました。弥富市という形の名前は、非常にアピール、PRできたというふうには思っております。</p> <p>非常に金魚すくいをやれば喜んでいただいて、皆さんやっていただけるんですが、それが実質、産業につながるかということまでいうと、なかなか難しいのが現状です。ただ、地場産業を絶やすわけにもいかないので、今後、PR事業も進めて、どんどん続けていきたいというふうに思っております。なかなか難しい問題ですので、簡単にはいかないと思いますが、引き続き市の行政の方にはお手伝いをしてPRを続けていきたいというふうに思っております。</p> <p>それから、もう一つ、私の趣味のほうで、基本目標の5にありますけれども、良好な都市基盤の整った便利で快適な暮らせるまちで、今日、名古屋港管理組合の方も見えておりますが、港湾地域でコンテナターミナルだとか、いろんな工場が港湾のところにできておりますが、魚釣り公園の整備、それから木曾岬干拓地の土地利用ということで私、少し書かせていただきました。</p> <p>自分、魚釣りがこのところ趣味なんですけれども、20年ぐらい前に名古屋港、いろいろなところに釣りに行っても、結構釣る場所があったんですけれども、20年ぶりぐらい、コロナになってから久しぶりに魚釣りを始めたんですが、20年前に比べたら、もう名古屋港で入るところが半分以下になってしまっていて、釣り人って、多分フリーにすれば、どんな危険なところも入っていったらいいので規制は厳しくはなっているとは思いますが、そういう反面、知多市にあった魚釣り公園もなくなっちゃって、もう釣り人からする</p>

	<p>と、もう釣る場所がどんどん制限されちゃって、よほどのところでないと入れないというのが現状でして、それで、せっかくであれば、弥富市の木曾岬干拓の愛知県のところを土地利用するなりして、釣り公園を造っていただきたいなというふうに書かせていただきました。</p> <p>以上です。</p>
藤井会長	<p>伊藤委員、ありがとうございました。</p> <p>続きまして、丸紅株式会社中部支社の清水委員、お願いいたします。</p>
清水委員	<p>2番に関しましてお話しさせていただければと思います。</p> <p>頂きました資料を拝見しておりましたら、弥富市さん、課題に挙げていらっしゃいましたところに、就職で人がやってくるんだけど、その人たちが流出してしまうと。30代、40代のところでの移住世代が発生してしまっているというところが課題とお考えかというふうにお見受けいたしました。</p> <p>その中で、その人たちはどうやって弥富市に残ってもらえるような方向にするのかといったときに、やはりその人たちが弥富市に愛着を持つということが大事なんじゃないかというふうに思います。今、職場、家庭、近所とかといったコミュニティはあるかと思うんですけども、一方で、自治会に今入れと言われても、なかなか入るのはハードルが高いと思います。そういった意味で、こういった移住世代の人たちが集まれるような場所を新たに整備するというのがいいんじゃないかと思います。</p> <p>具体的に申し上げますと、一例としましては、市営のコワーキングプレイスなんかを用意するというのはいいいんじゃないかと思います。今、リモートワークとかになっていまして、皆さん、自宅で働くということになっていますけど、実際のところは、自宅で働くというのは相当ハードルが高くてできない。そういったときに、市で無料で皆さんが集まって仕事ができる場所を提供する。それで、その場所に行くことによって、自然と移住世帯間のコミュニティが生まれて、そこの中から課外活動のようなものも生まれたりとかして、そういったことで弥富市に対する愛着、もしくは興味というものがどんどん生まれていくんじゃないかなというふうに考えます。これが1番の人口減少とか、少子高齢化のところにも寄与していくんじゃないかと思います。せっかくもう既に人は来ていますので、そのメリットを最大限生かされる方がいいのかなというふうに思います。</p> <p>それから、ちょっと時間がありますので、最後の自由記述のところなんですけれども、弥富市さん、すごく子育てなんかも積極的に施策をつくられているようにもお見受けいたしました。残念ながら、ちょっとアピールが上手じゃないのかなというふうに思いました。特に、やっぱり移住世帯をつかまえておきたいというのであれば、じゃ、近隣都市と比べて、どういったところに差があるのか、秀でているところ、駄目なところ、そういうのを徹底的に研究して、それをよく市民の人、もしくは、あえて移住してくる人を狙う必要は私はないと思っていますけど、出ていく人が出ていかなないようにするために、その人たちにそのメリットのところははっきり分かるように、もうちょっと明確にされるこ</p>

	<p>とがいいんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>以上です。</p>
藤井会長	<p>清水委員、ありがとうございました。</p> <p>続きまして、愛知県西部防災ボランティアコーディネーターネットワークの会の東嶋様、お願いします。</p>
東嶋委員	<p>このアンケートを書いた後で、職員さん、市民さん、中学生さんのアンケートのほうを拝見した中のところでちょっと気づいたことでいくんですが、皆さんの中で関心があったことということで、やっぱり観光やなんかがちょっと弱いなということだったり、中学生のほうのアンケートに出てくるところが、遊ぶところが少ない、イベントが少ないというような意見があって、その辺のところがあると、中学生というか、子供たちがもう少し楽しいのかなというようなことを思いました。</p> <p>今の弥富の問題として駅の開発というのが今出ているわけなんですけど、ここでやはりほかの方も書いてみえるんですけど、駅というのが弥富市の玄関ということで、弥富の駅のところの開発というのは、やはり一番、弥富市は開発して振興するにはいいところではないかなと思うものですから、そこのところで触れ合い、交流の場所というのを創出していくような方向ができたらいいのではないかなと思っています。</p> <p>1つお聞きしたいのは、駅前に、先ほど会長さんが言われた、金魚のライトアップする、ペットボトルのところがあるわけですが、あれは弥富市の土地ですよ。金魚のアピールというのもいいと思うんですけど、コロナ禍の中で、いろんな団体の方たちが今、集まらない、いろんなことができないという状況がずっと続いていて、これ、3年ぐらい続いているんです。そうすると、例えば、市民の団体である文化団体であるとか、あと、スポーツ団体もそうですし、自治会でもそうなんですけど、3年ということは、例えば自治会なんかだと、1年ごとで会長さん、長くても2年で会長さんが替わられるということで、3年止まると経験者がいないということで、今、市民活動が非常に困っている状況。</p> <p>それから、特に文化団体さんというか、お祭りとか、そういう継承の部分については、子供たちが太鼓をたたいたりなんかするんですけど、その練習も、先輩から教えてもらって続いているところが結構多いんですね。先生がお見えになるところもあるわけですが、3年止まると、みんな3年、年を取っていくわけですね。なので、なかなか難しくなっているということで、ここで、いろんなことを書いていただいているわけなんですけど、まずは、人口減少とか、高齢化の前に、今いる人たちがもう少し元に戻れるようなことの施策が何かできないのかなというようなことは一番考えています。</p> <p>専門である防災のところではいいんですけど、1つだけ言わせていただきますと、海翔高校の校長さんのほうでもいろいろ言っていたいたんですが、先生の書かれた4番の災害のところを、そこのところで閉校になる関係で、今、避難場所と高所避難場所として利用させていただいているわけですが、閉校することによって利用ができなくなるというのが、これが弥富市の中にある県立の高校ではあるんですけど、跡地利用というのを何とかうま</p>

	<p>く続けていっていただきたいなということもお願いしたいと思います。 以上です。</p>
藤井会長	<p>東嶋委員、ありがとうございました。</p>
	<p>それでは、続きまして、同志社大学の入江先生、お願いいたします。</p>
入江委員	<p>私、立場的に多分、総論のところをお話ししたほうがいいんだろうなと思いましたので、1番のところだけ書かせていただきました。時間も迫っていますので、かいつまんで発言をいたします。</p>
	<p>今、人口の減少、増加している自治体もごく僅かございますけれども、これを1つの市町村単位で正面切って解決しようというのは、やはり限界があるというふうに感じておりまして、ですので、これをある程度避けられない現象として捉えた上で、どうやってそれに対応していくかということを考えていくのが、これからのまちづくりには必要なんじゃないかなと思っています。</p>
	<p>そのときに自然減と社会減とありますけれども、それぞれについてやはり対策を考えていく必要がありますけれども、近隣の市町村と人口の奪い合いをするというのは、私はあまり好ましくないというふうに考えておりまして、もちろんある程度、その市の強みを出して、こちらに来ていただくということも必要なんですけれども、必ずしも独り勝ちするというのが目指す方向性なのかというのは、やや疑問を感じるところです。ですので、お互いに皆さんが持続可能な社会ということ、それぞれの市民が生きやすいような社会というのを弥富の中で実現していくということが、恐らく幸福度につながるんじゃないかなというふうに考えています。</p>
	<p>ですから、政策展開の方向性としては、大きく2つ考えているんですけれども、1つは、人口減少をある程度緩やかにする努力はするにしても、減っていくというような傾向を見た上で考えると、コンパクト化ということは避けられない。ダウンサイジングの行政ですね。そのときに、公の施設等をどうマネジメントしていくかということが大きな問題になります。当然、住民の方々には不利益配分をお願いする場面というのが出てこざるを得ない。これを丁寧に進めていくということ、それが必要だろうと思っています。</p>
	<p>それから、2つ目の方向性としては、やはりある程度は人口も減少を食い止めた、あるいは、先ほど清水委員もおっしゃられましたけれども、出ていく方というのを止めた。こういうことを考えると、攻めの政策展開も一定程度必要だろうと思うのですが、やはりその見せ方ですね。訴求力を持って届けるということが行政の側には求められるんだろうと思います。これまでは、やはりどうしても供給者サイドの政策のつくり方ということをしていますので、縦割りで、住民の側はあちこち行って情報を取らないといけないということになっているわけですけれども、やはりそれでは届くところにも届かないと思いますので、パッケージ化をして、例えば、移住される方、子育て世帯の方、そういった方々に届きやすくするような施策展開ということが必要かなというふうに思っております。</p>
	<p>以上です。ありがとうございました。</p>

藤井会長	<p>入江委員、ありがとうございました。</p> <p>それでは、続きまして、中京大学の釜田委員、お願いいたします。</p>
釜田委員	<p>先ほど御挨拶で、財政健全化というのは重要な視点というふうに申し上げましたけれども、財政をよくするには、歳出削減と税収の増加、それしかないわけですね。税収の増加に関しては、地域経済の振興ということがやっぱり非常に重要になってくると思います。また、当然、先ほど入江先生がおっしゃったように、人口増加、もしくは人口減少を最小限に食い止めるということも必要になってきます。</p> <p>そこで、この1番の人口減少、少子高齢化の進行というところで、様々な御意見、そのとおりでと思うんですけども、データからすると、これは社会的変動の部分なんですけど、近隣自治体との間で転出超、女性の30代が転出超というのがやっぱり気になるところなので、その背景をもう少し詳しく調べたほうがいいんじゃないかなと思います。そして、その解消、あるいは改善が可能な要因があるなら、対応策を早急に練ったほうがいいと思われまます。</p> <p>少子化に関しては、最近、国のほうでも全世代型社会保障構築会議というのが開かれていて、子育て支援、特に経済的な子育て支援についてかなり力点が置かれている状況です。経済的な部分というのが子育て支援の中でも重要ではないかという考えが出てきている中で、弥富市が実施している、そういう経済的な子育て支援の内容について伺いたいなと思っています。</p> <p>2番目、これは地域振興の話で、交通の便の良さを生かして駅前整備事業、具体的な事業計画、私、それほど知っているわけではないんですけども、何人かの方がおっしゃっていたように、ホテルなどの建設を目指すんじゃないかと。非常に弥富市としては大きなチャンスとしてリニア新幹線の開通というのがあります。そのチャンスを生かさない手はないなと思っています。もちろん名駅周辺ではかなり開発が進んでいたり、地価が上昇したりということが起こっているんですけども、その波及効果というのを待っているだけじゃなくて、つかみ取っていくような、そういう動きというのが必要になってくるかなというふうに思います。</p> <p>以上です。</p>
藤井会長	<p>釜田委員、ありがとうございました。</p> <p>すみません、お時間のほうが予定の3時半に達してしましますが、このまま審議のほうは続けさせていただきたいと思います。委員の皆様、御予定がもしいらっしゃる方があったら、おっしゃっていただければと思います。申し訳ありません。</p> <p>それでは、今井委員、お願いいたします。</p>
今井委員	<p>いろいろ書いてみたんですけど、大体、こういうことにつながるのかなと思ったのが、2番の誰もがチャレンジできる場所の提供。結構、ヤトミーティングでも声を上げて言っ</p>

ているんですけれども、弥富市の公共施設で営利目的によるマルシェの開催とかが行いにくいんですよね。営利がある時点でまず断られる。新たなイベントにチャレンジしたくても、強く声を上げないとということもありまして、営利営業の制限をかけていると、商業の発展にもつながらないし、いつまでも市内で経済が回らない、そんな感じがするんですけど、公共施設で営利営業ができれば、各地区の公園とか、公民館を使ってマルシェとかを開催して、御近所同士がコミュニケーション取れる賑わいの場所をつくったり、だから、あえて場所をまたつくるといふより、今あるものを活用して、賑わいの交流拠点につなげてもいいのかなと思います。

これにつながると言ったらあれなんですけど、お母さんたちがチャレンジしにくいところていくと、保育へのニーズ、多様化していると思うんですけど、子育てのお母さん、働いている時間、9時から3時までとかじゃなくて、私、10時から夜9時ぐらいまで働いていたりとかするんですけど、うちはもう子供が大きいので、その辺は心配ないんですけど、小さいお子さんがいるお母さんたちもそういう働き方ができれば、いろんな可能性、社会に活躍できる可能性があるんじゃないかなと思うので、その辺のニーズ調査とかをしていただいて、細かく対応できる整備が必要かなと思います。

以上です。

藤井会長

今井委員、ありがとうございました。

では、鈴木委員、お願いいたします。

鈴木委員

お伝えしたいことは、個別に書いてあることは読んでいただいて、私が常々このまちづくりで感じているのは、弥富市がどこを目指しているのかというのが本当に腹落ちしてないところなんです。「わたしとみんなの未来計画」って、私のキャッチコピーを採用いただいてありがとうございますんですけど、これも、目指す場所といたら、これ、書いてあるんですけど、「地域でつくる『人・自然・文化』の調和、輝く未来へ繋ぐまち・弥富」って、これ、どこまでみんなが腹落ちしていますかという。そもそもこれ、本当にここ、目指すところですか。みんながそう思ってここを目指しているのか、弥富自身はというのがすごく見えていなくて、まちづくりも確かにフォアキャストで、もうやっぱり前例踏襲で、今までこうやってきたから、その延長線上で考えていくというのは、もちろんそうせざるを得ないのが現実的なのは分かるんですけど、ただ、計画とか、この構想とかという場合は、やっぱりあるべき姿をまず描いて、それに対して、それを実現するためにはこういうことが要るよねということのやっぱりバックキャストで考えていかないと、なかなか理想の計画というのにならないのかなと。

やっぱり今までやってきたことの積み上げでしかない、そこには、結局、できることしか計画しないみたいなことになっちゃって、本当にやるべきことなのかどうかというのも判断がつかないままというのは、それがずっと続くような気がして、一旦、後期計画だから、なかなかそれも難しいとは思いますが、視点としては、そういったあるべき姿をまずしっかり軸を決めていって、それで、それを実現するにはどうやったらいい、こ

れが足りない、これが足りているというような考え方でできれば考えたいなというのはずっと思っているところでした。

なので、今回もいろいろ、今ある状況、このための6項目だとは、なっているとは思いますが、いや、本当？という感もちよっとありますけど、それを一個一個検証することに時間を取る前に、まず弥富のビジョンとか、今よく言う、ビジョン、ミッション、バリューじゃないですけど、そういったところを言語化していただきたいなと思いました。

以上です。

藤井会長

鈴木委員、ありがとうございました。

最後、私の意見と少しコメントをさせていただいて、この御意見いただくところは終わりにできればと思います。少しお時間いただければと思います。

各委員の皆様の専門的な見識と御経験から具体的な御意見を多数いただいて、本来であれば、一つ一つ深く伺いたいことばかりだったという印象でございます。そのようなお話の中で、私は皆さんの委員から出た意見をどう生かしていけるかなというところを考えながら聞かせていただきました。大事なキーワードはたくさん出てきたように思います。子育てですとか、働く女性、金魚のPR、それから、部活動の地域移行といったところ、大事なキーワードが出てきているというふうに思っています。

私は、大学での立場が社会連携ですので、3番の市民協働の推進、協働のまちづくりの推進といったところが一番意見としては持っているところでございまして、協働を進めていくということがどういうことが必要なのかというのが常々考えている課題でございます。立場が違う人が主体的に対等に関わっていくためには、やはり目標が絶対に必要になってくると思っています。

そのような意味で、総合計画の基本構想を改めて振り返ってみますと、計画の位置づけと役割という中に、市民と行政との共通の目標というところが掲げられております。この総合計画の中でも大事な市民協働というところがしっかりとうたわれているかなというふうに思います。そして、まちづくりの参画、協働するための共通事項というのが市民にとっての目標になっていくというところなんです。

ですので、後期の基本計画策定に当たっては、理想かもしれませんが、市民にとっても大切な目標となる計画をつくること、そして、行政、市役所にとっても大事な目標になる計画をつくっていくということが改めて大事ではないかなというふうに思いました。そのような意味で、この審議会も協働の場になってくるというふうに思いますので、委員の皆様も含めて、今後も御議論を進めていければと思っております。

私からは以上になります。

この審議事項のところは以上になりますので、事務局のほうにお返しして、その他の御説明をお願いいたします。

どうぞ。

東嶋委員

すみません、さっき途中までで、最後に、ここでもう終わってしまいますので、もう一

	<p>回お聞きしたいんですけど、駅前のところ、あれは弥富市の金魚のイルミネーションがあるところは、弥富市の土地でしょうか。</p>
伊藤建設部長	<p>建設部長でございます。</p>
東嶋委員	<p>はっきりした答えじゃないですけど、恐らく市有地だったと記憶しております。</p> <p>何かというと、今、イルミネーションというか、置いてありますよね。ずっとお話ししていて、これ、最後にお聞きしたかったのは、いろんな各種団体の方のPRの場所として使えたりなんかしたらどうかと思ったんです。各種団体というのは、先ほどもこのコロナ禍でいろいろと困ってみえる文化団体だとか、スポーツ団体というところとか、あと、商工会の方とか、いろんな団体の方の組織があると思うんですけど、皆さんが通られる駅前ですので、そこに交替でもいいですし、どういうふうでもいいんですけど、出してみたいという方があったら、そこを利用するような方法をつくっていただいたら少しはいいのかなと思ったものですから、市のほうにお願いしていきたいと思っております。</p>
藤井会長	<p>東嶋委員、ありがとうございました。</p> <p>それでは、その他のところの御説明、事務局よりお願いいたします。</p>
事務局（伊藤）	<p>5 その他</p> <p>次回の審議会について御案内いたします。</p> <p>第3回弥富市総合計画審議会は、3月27日月曜日、午後1時30分より開催を予定しております。</p> <p>改めてのアナウンスとなりますが、今回は改正骨子案をお示するとともに、委員の皆様を2つのグループに分けて意見交換等をしていただこうと考えております。</p> <p>また、正式な開催通知につきましては、改めてお送りさせていただきますので、よろしくお願いたします。事務局からは以上となります。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、もし最後、御質問、御意見等ございましたら、御発言いただければと思いますが、よろしかったでしょうか。</p> <p>それでは、年末になりますので、本年も大変お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願いたします。よいお年をお迎えください。</p> <p>では、事務局に戻します。</p>
事務局（伊藤企画政策課長）	<p>6 閉会</p> <p>藤井会長はじめ各委員の皆様、本当にいろいろな御意見ありがとうございました。本日は委員お一人ずつ御発言をいただき、また、慎重審議のほうもしていただきまして、感謝申し上げます。</p> <p>以上をもちまして、第2回の弥富市総合計画審議会は閉会させていただきます。御協力</p>

ありがとうございました。

最後に、会議の冒頭申し上げましたが、本日お配りした委員意見の名前入りのみ、取りまとめ資料を回収させていただきますので、恐れ入りますが、机の上に置いてお帰りいただきますようお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。